

高臨場感VR(バーチャルリアリティ)技術及び街づくり支援VR技術

社会価値創造機構 柴野 伸之

キーワード

VR、高臨場感、マルチモーダル、街づくり、再開発事業

研究概要

高臨場感VR技術とは、コンピュータ上に構築したバーチャル空間を単に映像表示するだけではなく、人間の感覚系に作用するような呈示を実現することによって、まるでその空間に自らが存在するような没入感や臨場感を伴う空間体験を実現する技術です。感覚系に作用することでマルチモーダルプレゼンテーションとも呼びます。図は視野をすべて覆う表示システムの構築事例を示します。この技術応用として再開発事業などの街づくりに活用する支援VR技術を開発しています。大阪駅は実際の開発事例の1つです。合わせて光環境シミュレーションを開発し、昼光・夜間の景観検討も実現しています。



【(左)大阪駅設計事例,(中)高臨場感提示,(右)キッチンVRシステム】

アピールポイント

目的、用途、コストに応じたVRシステムの設計を行います。

視覚・聴覚・移動感覚など人の感覚系に作用する提示システムの設計を行います。

応用分野

再開発事業等の街づくり支援、住宅設計、バーチャル空間構築・活用